

地域再生とまちづくり

<第12回>

——各都市が目指すものは

本州最西北端に位置

山口県長門市仙崎は最も大陸に近い地域の一つである。今年7月16日、長門市仙崎の路上でボリタンクにつかまって漂着してきた脱北者が報告された。また歴史を紐解けば、終戦直後の1945年9月、山口県は仙崎と下関の2カ所に引揚援護事務所を開設し、主として南朝鮮方面からの引揚者の受け入れ業務を開始した。引揚港に留まらず、朝鮮、台湾など祖国へ帰還する在日外国人の送出国としての仙崎港の送り出し数は、博多港に次いで2番目に多いとの記録がある。

長門市は本州の最西北端、山口県の西

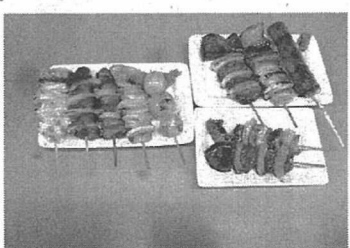


概要 (提供：長門市)

■整備計画

- 農林水産物等直売所・レストラン棟(新設) <平成29年10月 供用開始予定>
- 休憩所・情報発信施設棟(改修) <平成30年4月 供用開始予定>
- 道の駅 仙崎(仮称)登録予定地 <平成30年4月 開業予定>

遊ぶ・つなぐ・食べる 魅力、域内消費の拡大図る



老舗「こうもり」の焼き鳥

海上アルプスで自然を満喫し、金子みすゞの世界に遊び、地元焼き鳥などで食欲を満ち、温泉でくまぐま。こう書いておけば、美味しい焼き鳥を思い出すにはいられない。

(日本不動産研究所山口支所、不動産鑑定士・高田有章)

山口県長門市・「道の駅」を交流拠点にする仙崎地区

北部に位置し、北側は日本海に面した北長門海岸国定公園に指定される美しい風景が広がる。人口4万人弱の長門市には、リウマチなどの湯治場として有名な俵山温泉や長門湯本温泉など長門温泉郷五名湯がある。長門市では現在、仙崎の青海島観光汽船乗り場前

を整備して「道の駅」登録を目指す、仙崎地区グラウンドデザイン基本計画に基づいた「仙崎地区交流拠点施設整備事業」が進行している。

18年4月開業目指す 長門市では市全域への「市外、県外からの交流人口の拡大と外貨の獲得」「長門の魅力拡大と域内消費の拡大」の取り組みとして、この10月頃から仙崎の青海島シーサイドスクエアの駐車場に農林水産物直売所・レストラン棟の建設に着手(来秋開業予定)。

さらに青海島観光汽船乗り場に隣接するショップ青海島を改修して、休憩スペースと情報発信・交流スペースとして

を整備して「道の駅」登録を目指す、仙崎地区グラウンドデザイン基本計画に基づいた「仙崎地区交流拠点施設整備事業」が進行している。



周遊して寄稿する青海島観光汽船



金子みすゞ記念館(生家跡)

0.2㎡。総事業費は約10億円。年間39万人の観光客と4億3000万円の売り上げを目指している(長門市成長戦略推進課より聴取)。

仙崎地区交流拠点施設の特徴は、「遊ぶ・つなぐ・食べる」である。紺碧の海上に奇岩怪石が連なる青海島を遊覧船で遊んで、徒歩では小学校の国語の教科書に多く採用される童謡詩人「金子みすゞ」記念館(生家跡)、車では長門温泉郷五名湯などにつながる、長州黒かしわの焼き鳥、仙崎イカ、仙崎かまぼこなどを食べる。